

でTDMの必要な薬剤はアミノグリコシド系薬やグリコペプチド系薬で、これらの薬剤は腎排泄型であり、その体内動態は残腎機能によって大きく影響を受けるため、中毒域に入らず、かつ十分な治療効果を上げるためにはTDMは不可欠である。また、最近、抗菌薬治療において、より科学的に、薬物動態(PK)と薬力学(PD)データに基づいて投与量や投与間隔を決定するPK/PDが注目され始めた。このPK/PDに基づいた抗菌薬治療では、抗菌薬の血中濃度や薬力学的作用の程度、発現時間などに基づいて用法・用量を設定する。つまり、各薬剤の特性を踏まえた投与法の設定が不可欠となる。さらに、治療開始時の初期投与量を決定する上で、投与前にシミュレーションを行う初回投与設計により、治療の初期段階から適正な投与量で治療を開始でき、有効性の向上、治療期間の短縮、これによる経済的な負担減、さらには、耐性菌の発現抑制等の向上が図られる。

今回、この発表を機に、抗MRSA薬での治療の際には、初回投与設計を立て治療開始し、そしてTDMによる再評価を行う意識が益々高まることで、これからの抗MRSA薬の適正かつ有効的な治療へとつながることを切望する。

2008年4月24日

#### ◆ 経過管理に網膜光干渉計(OCT)が有用であった Vogt-小柳-原田病の1例

眼科 伊藤 洋 樹

症例：28歳女性

原病歴：H19年12月6日、1週間前より感冒様症状と頭痛、結膜充血を自覚していたが、この日の朝より両眼中心部の暗点を強く自覚し近医眼科受診。高度の視力低下と、眼底検査にて両眼の視神経乳頭浮腫と漿液性網膜剝離を指摘され12月7日に当科紹介受診となった。

経過：特徴的な急性期症状の臨床経過と、典型的な眼症状、眼底所見よりVogt-小柳-原田病と診断し、入院のうエステロイド大量療法が施行となった。視力の改善が遅れたが網膜光干渉計(OCT)での漿液性網膜剝離所見の改善がみられていたため、不安なく治療を継続することができ、またその管理に有用であった。退院後4ヶ月経った現在、再燃を認めていない。

2008年4月24日

#### ◆ 異なる経過をとった溶連菌感染後急性糸球体腎炎の3例

小児科 木村 貢

溶連菌感染後急性糸球体腎炎(poststreptococcal

acute glomerulonephritis: PSAGN)は小児において急性糸球体腎炎の大部分を占める疾患である。肉眼的血尿、高血圧、浮腫が代表的3徴であるがすべてがそろった例も60%程度といわれている。先行する溶連菌感染があるが、無症状で気づかれないことが多い。顔面、上下肢の浮腫を主訴に来院して診断がつくことが多い。咽頭培養、溶連菌迅速診断、血清ASOの上昇は溶連菌感染を示唆する。補体の一時的低下が特徴的な検査所見であるが、採血のタイミングによるものか明らかな低下を認めない症例の報告も散見する。入院としたうえで安静、食事・水分管理などを行うが、特異的な治療はなく、個々の症例に応じて対症療法を行う。平成19年度に経験した重症度の異なるPSAGNの3例を発表する。

1例目、11歳男子。顔面の浮腫を主訴に来院した。入院の同意が得られず、外来にて経過を追った症例である。肉眼的血尿は経過中認めなかったが体重増加、浮腫、血圧上昇を認めた。ASOの有意な上昇、補体の一時的低下を認めた。

2例目、11歳女子。1例目の男子とはクラスメートであり発症時期もほぼ一致する。顔面、下肢の浮腫を主訴に来院。肉眼的血尿も認め、同意が得られたので入院とした。入院後すぐ利尿期に入り浮腫は速やかに改善した。一時的蛋白尿を認めたがこれも速やかに消失した。ASOの上昇、補体の低下も認めた。血尿の持続があり外来フォローを継続している。

3例目、7歳男子、胃腸炎症状の持続を主訴に来院、入院とした。BUN、クレアチニンの異常高値より著明な脱水と判断し補液を継続したが腎機能低下のため排尿なく2日より2日間、透析を必要とした最重症例。ASOの上昇もあり、腎生検の病理所見よりPSAGNと診断した。

2008年5月22日

#### ◆ 呼吸器系細胞診の誤陰性を減少させるための取り組み

臨床検査科 病理検査係 増田 雅 巳  
土 橋 求 新井田 富 子

1997年から2007までの11年間で、144例の肺がんの手術が行われた。細胞診で「陽性」と判定した検体のほとんどについては組織型の推定も合致していたが、「疑陽性」については推定組織型と最終診断の間に軽度のばらつきが認められた。細胞診検査の「陰性」検体の中にどの程度「誤陰性」検体が含まれているのか、細胞検査士3名と細胞診専門医1名で再鏡検した。その結果、「陰性」と判定された検体408件のうち60件(14.7%)が「誤陰性」と思われた。鏡検者によって、陰性から陽性と判定にばらつきの認められる検体も存在した。誤陰性例の異